

米子市・淀江町合併協議会 新市将来構想(案)について

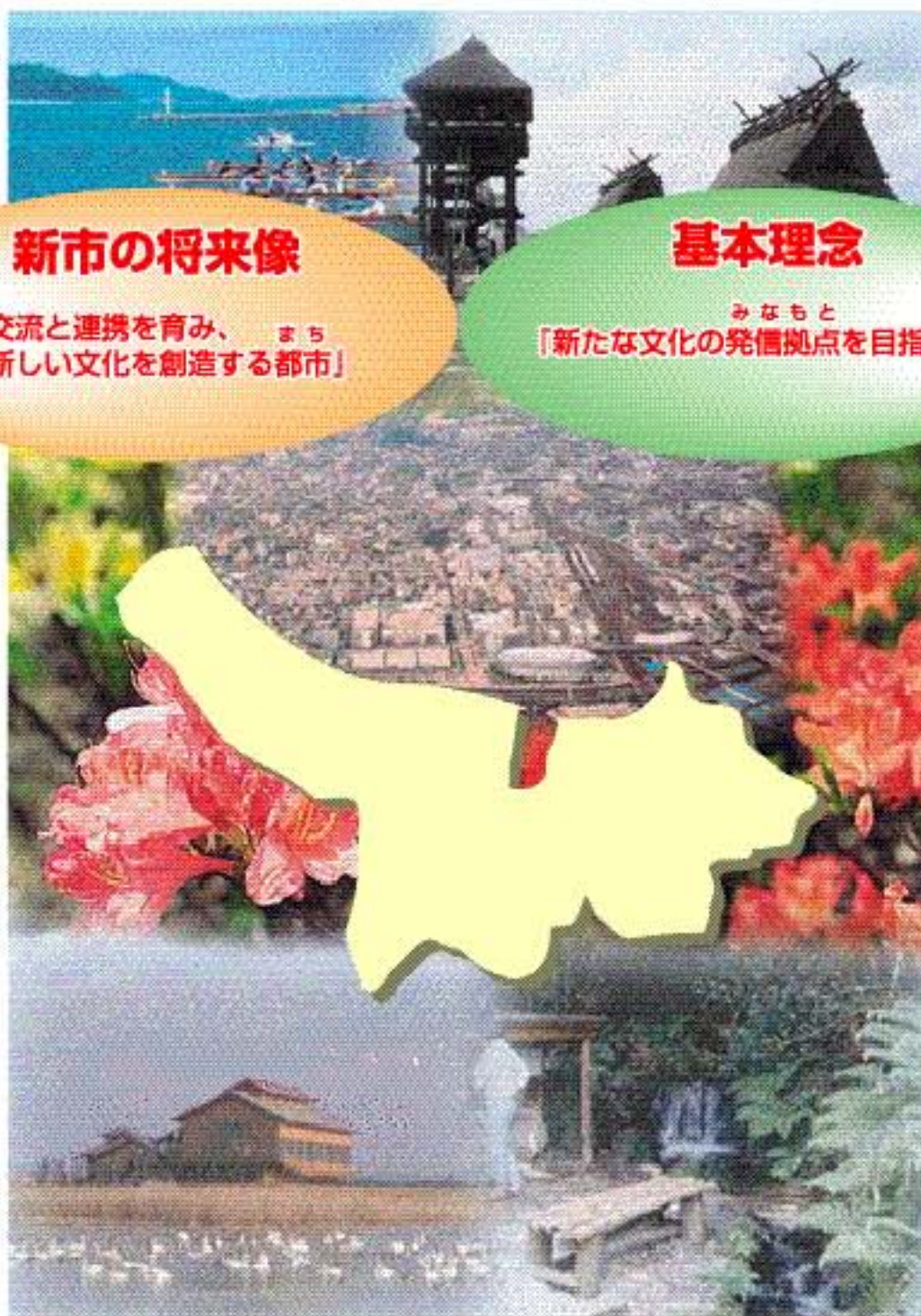
淀江町と進めています合併協議で、「新市将来構想」案がまとめられました

新市の将来像

「交流と連携を育み、まち
新しい文化を創造する都市」

基本理念

みなもと
「新たな文化の発信拠点を目指して」



平成16年3月
米子市

新市の将来構想案について

米子市と淀江町の合併によって誕生する新市の将来構想案(以下「将来構想案」と言います。)(概要版)をお届けします。

これは、米子市・淀江町合併協議会が策定したのですが、ここでは、米子市の現在のまちづくりの考え方がこの将来構想案の中にどう反映されているのかということについてお話しします。

米子市のまちづくりについて

米子市は、平成13年度に策定した「第7次米子市総合計画」(以下「7次総」と言います。)をまちづくりの指針として市政運営を行ってきています。

「健やかに 幸せに みんなで豊かなまちづくり」という将来都市像の下に、市民と行政が一体となって、市民一人一人が心身ともに健康で幸せな生活を営むことができ、人・物・情報の活発な交流を通じて夢と未来をはぐんでいくことができるようなまちづくりを目指すものです。

平成15年4月、米子市長は、「生活充実都市・米子」というまちづくりの理念を打ち出しました。これは、7次総にも掲げた「健康で幸せな生活」という視点をさらに特化させたもので、市民の皆さん一人一人に生活の充実感と米子に住んでいることに対する誇りを持っていただくことのできるような都市を築こうという考え方です。

そして、淀江町との合併を間近に控え、市民生活の基盤をさらに充実させるため、当面、「少子高齢化対策」「経済活性化対策」「市民参画と市政の改革」の3つの柱を優先施策として取り組むこととしています。

新市のまちづくり

新市のまちづくりと言っても、米子市のまちづくりを大きく方向転換してしまうものではなく、あくまでも、これまで取り組み築き上げてきたものを土台として、さらに大きく飛躍しようというものです。

このため、将来構想案の策定に当たっても、現在の本市のまちづくりの方針等が十分に反映されるよう努めました。その主なものを紹介します。





(1) 将来都市像について

将来構想案では、**交流と連携を育み、新しい文化を創造する都市**^{まち}という将来都市像が掲げられています。

「交流」というキーワードは、7次総においても非常に重要な位置付けをしており、「人・物・情報の活発な交流」を通じて夢や未来をはぐくむことができると謳っていますが、「交流」は、本市のみならず、この地域の発展にとっても不可欠なキーワードであり、将来都市像においても、柱の一つとして取り入れられ、新市においても、これまでの米子市のまちづくりと極端に変わることのない方向を目指して取り組んでいくことになります。

また、「生活充実都市」の理念に掲げた「生活の充実感」や「米子に住んでいることに対する誇り」が必ず新しい文化を創造するためのエネルギーになるものと考えています。

(2) 基本理念について

基本理念の形成の視点に **進取と伝統を重んずる市民のころ** と **新たな交流の時代** が掲げられています。

「進取」というのは、新らし物好きの米子市民の気質から、「新たな交流の時代」というのは、米子市にあるコンベンション・センターや、この地域の陸・空の高速交通網等の交流基盤から導き出されています。これに淀江町の古代からの大陸交流の証しを融合したものから **新たな文化の発信拠点をめざして** という基本理念が生み出されました。

基本理念には、「定住」のまちづくりと「交流」のまちづくりが併記されています。

このうち、**活力ある個性豊かな定住都市の形成** は、新市の住民生活の充実を主題としたまちづくりとして、また、**新たな交流の時代を見据えた都市の形成** は、都市間競争など対外的な環境を意識したまちづくりとして捉えることができます。

そして、前者は、生活の充実感とふるさとに対する誇りを謳った「生活充実都市」のより発展した姿であり、後者は、「交流」という7次総で目指すまちづくりの都市戦略的な視点を新市に継承するものだと考えています。

(3) 市民と行政の関係

将来構想案では、まちづくりの基本目標を実現していくための体制・手法として **市民と行政のパートナーシップによる協働のまちづくり** ということを掲げています。

「市民と行政の協働」という考え方は、地方分権の進展に対応したまちづくりを進めていくためには、なくてはならないものであり、本市においても、7次総の将来都市像に「市民と一体となって目指すまちづくり」と掲げているほか、当面の市政運営に当たっても「市民参画と市政の改革」を柱の一つとして取り上げています。

この考え方は、合併後も、当然、引き継がれるべきものであり、住民の皆さんと一緒に新しい都市を作り上げていくこととなります。

(4) 都市構成図

「ゾーン」「拠点地区」ともに、米子市と淀江町の土地利用の実態に即して大まかに位置付けされたものでありますが、具体的な土地利用や基盤整備は、この構想を基に作成される新市建設計画に盛り込んで、新市において実施していくこととなります。

(5) 建設計画

今後、合併協議会において、**交流と連携を育み、新しい文化を創造する都市** を将来像とするこの構想に基づき、より具体的なまちづくりの考え方や方策を盛り込んだ「新市建設計画」が策定されることとなります。

合併協議会で作成された新市将来構想案・概要版(P4から)をご覧ください、市民の皆様のご意見をお寄せください。

- (1) 新市将来構想案について
- (2) 新市建設計画に盛り込むべき事業について など

募集期間 3月1日から20日まで
募集方法 ご意見を、郵便、ファクシミリ、電子メールで下記までお送りください。
提出先 米子市企画部企画課
〒683-8686 米子市加茂町1丁目1番地
Tel (0859) 23-5351
Fax (0859) 23-5392
メールアドレス kikaku@yonago-city.jp



交流と連携を育み、 新しい文化を創造する都市

～新たな文化の発信拠点をめざして～
【新市将来構想案・概要版】



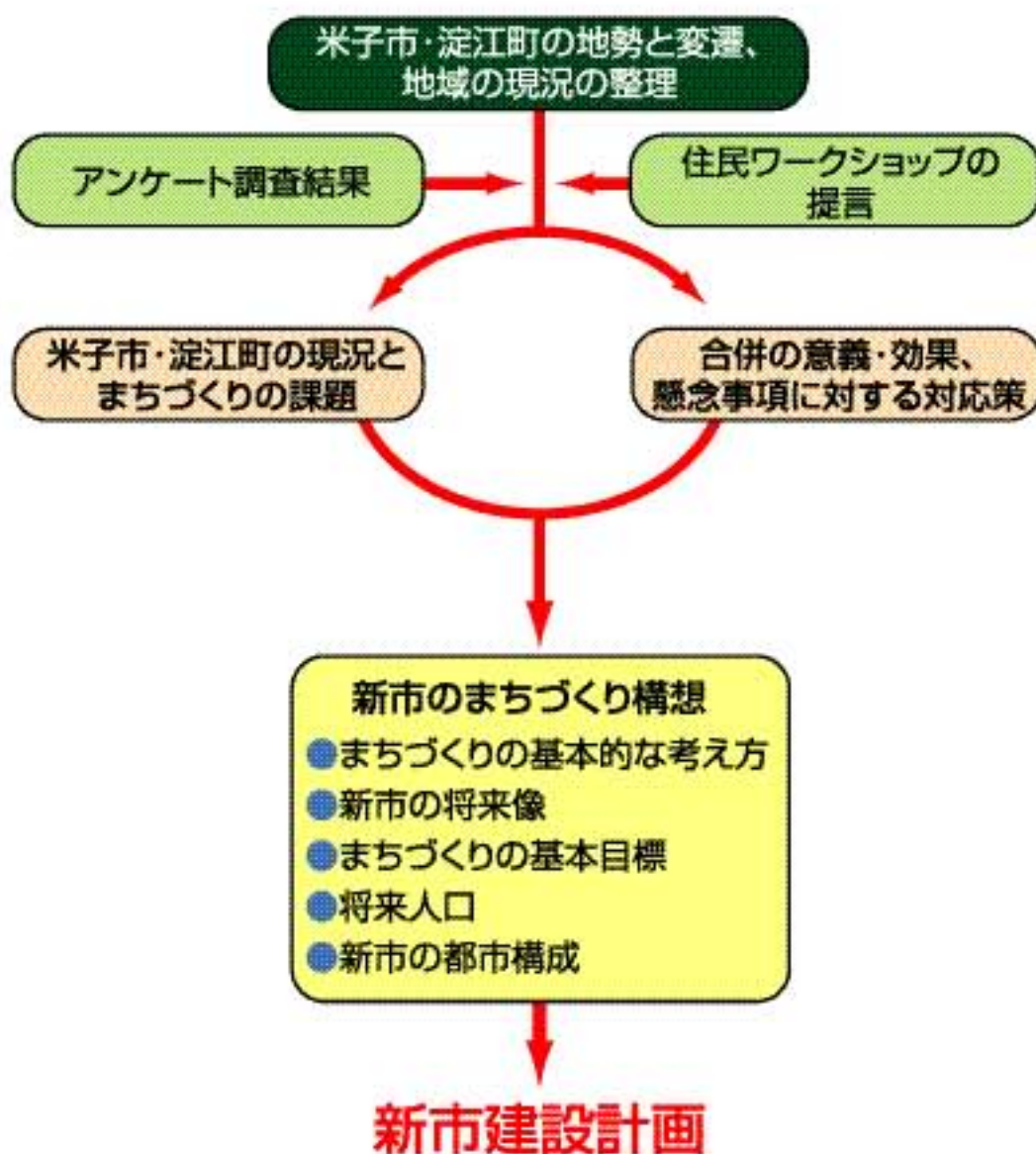
平成15年12月
米子市・淀江町合併協議会

新市将来構想策定の目的と位置づけ

本構想は、米子市、淀江町の住民に対して、将来のビジョン¹を示す基本的な計画である「新市建設計画」のグランドデザイン²として位置づけられ、環日本海時代³への対応を踏まえ、将来的には20万人以上の都市の実現に向けた長期的な観点も視野に入れ策定します。

策定にあたっては、米子市・淀江町における社会経済情勢や住民意向、まちづくりの課題などを踏まえ、活力ある県西部圏域の拠点都市として、合併後の新市のまちづくりのあり方などを示し、合併への意識・理解を高めることを目的としています。

新市将来構想策定の進め方



1.ビジョン[Vision]
将来の共通し、構想、未来像。

2.グランドデザイン
[grand design]
大規模な事業などの、全体にわたる大きな計画・構想。

3.環日本海時代
新しい国際秩序が形成されつつある中で、将来の発展の可能性を秘めたアジアが注目を集め、環日本海経済圏が議論され、日本、韓国、中国、ロシア、モンゴルなど環日本海諸国の役割が高まり、新しい時代の到来が期待されている。特に日本海沿岸には大きな期待を寄せられている。

※このページは、総務省による一般的な内容を記載しました。

合併の意義

地方分権の推進
高齢化への対応
多様化する住民ニーズへの対応
生活圏の広域化への対応
効率性の向上



合併の効果

1. 住民の利便性の向上

(1) 窓口サービスの拡充 (2) 生活の実態に即した小中学校区の設定
(3) 公共施設(図書館、スポーツ施設、保健福祉センター等)の利便性向上

2. サービスの高度化・多様化

(1) 多様で個性的な行政施策の推進 (2) 専門職員の充実 (3) 高サービス、低負担
(4) 行財政基盤の強化による行政サービスの充実・安定
(5) 公共的団体の統合・新設による多様で広域的な事業展開 (6) 行政・職員のレベルアップ

3. 重点的な投資による基盤整備の推進

4. 広域的観点に立ったまちづくりと施策展開

(1) 広域的な都市基盤の整備 (2) 広域的な課題への対応

5. 行財政の効率化

(1) 管理部門の効率化 (2) 行政経費の節減 (3) 公共施設の効率的配置

6. 地域のイメージアップと総合的な活力の強化

合併に対する懸念事項と対応策

合併により、役所が遠くなり、不便になるのではないか

合併後も、市役所及び町役場は新市の支所や出張所として活用することも可能です。他の市町に通勤・通学している人は、通勤・通学地でも窓口サービスを受けることができ、利便性が高まります。

合併により地域格差が生じるのではないか

合併協議会において、合併後の新市の将来像を定めた新市建設計画を策定します。また、各地域の意見・要望等を行政に十分に反映させることができるよう「地域審議会」という制度を導入することも可能です。公共施設の配置にあたっては、各地域の資源や特徴、個性を踏まえた適切かつ計画的な配置に努めます。

合併により地域の連帯感やコミュニティが弱体化するのではないか

旧市町やコミュニティ(自治会活動、公民館活動など)単位の重要な行事や活動の存続に配慮します。

合併により、サービスが低下するのではないか

住民間の公平を保ちながら、住民の不利益とならないことを基本として、財政状況にも配慮しつつ、適正な行政サービスの水準を確保します。支所や出張所の効果的な活用を図り、きめ細かな行政サービスの提供に努めます。

まちづくりの課題

社会背景、両市町の地域の現況並びに住民アンケート調査及び住
民参加のワークショップの開催を通じて得られた意見や提言を踏まえ、
まちづくりの課題を次のように設定しました。



社会背景

1. 住民の日常生活圏の拡大
2. 広域的行政課題の増大
3. 実行段階に入った地方分権時代
4. 人口の減少、少子・高齢化の進行
5. 国及び地方の財政状況の著しい悪化
6. 高度情報化社会の進展
7. 環境問題の深刻化
8. 国際化の進展
9. 住民参画によるまちづくりの進展

現況分析

- | | |
|-------|--|
| 自然 | ・自然に恵まれた都市、歴史のまち |
| 地勢 | ・遺跡のまち |
| 道路・交通 | ・山陰の交通の要衝 |
| 人口 | ・若年減少、高齢化、西部圏域の中心 |
| 産業 | ・山陰の産業の中心
・農業は特産品、漁業は養殖化
・工業は減少傾向
・商業は減少、観光は増加
・第3次産業は増加 |
| 施設 | ・施設の充実再編 |

まちづくりの課題

1. 拠点都市としての発展
2. 生活基盤の充実
3. 環境と共生したまちづくり
4. 健康と福祉のまちづくり
5. 教育環境の充実したまちづくり
6. 歴史・文化を活かしたまちづくり
7. 産業の活性化と新たな展開
8. 地方分権時代への対応

アンケート結果

日常生活に対する不満、やや不満

1. 働く場、雇用の機会
2. 交通機関の利便
3. 道路の整備
4. 公園・緑地等の整備
5. 下水、排水の処理

将来像

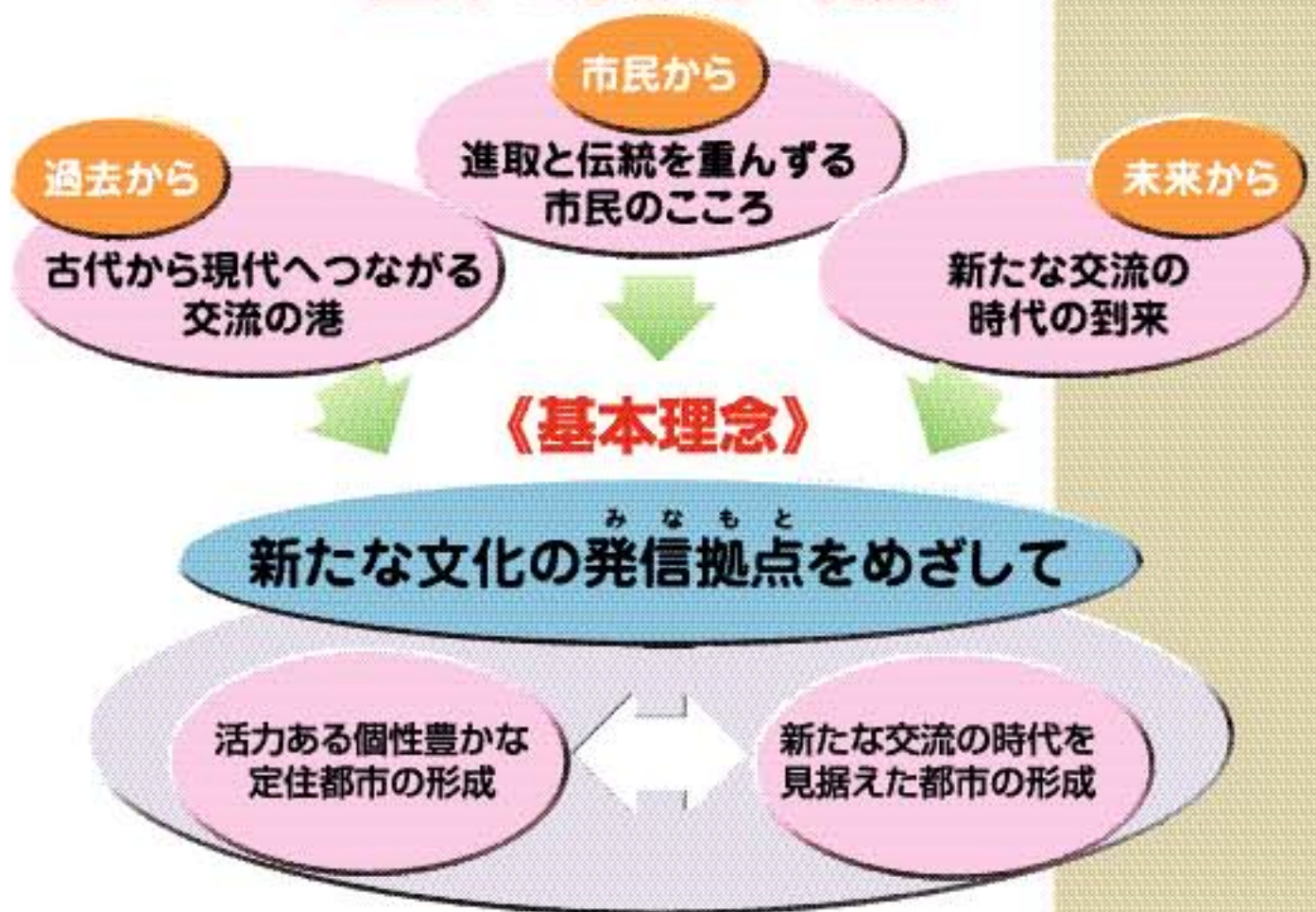
1. 福祉のまち
2. 安全なまち
3. 自然を生かしたまち
4. にぎわいのあるまち(高校生アンケート)

ワークショップの意見

生活環境グループ 健康福祉グループ
産業グループ 都市基盤グループ
教育文化グループ

1. 高齢者が暮らしやすく、かつ若い人材も呼び寄せ
る魅力あるまちをつくる
2. 子育て・高齢者・障害者を地域で支える新しいコ
ミュニティをつくる
3. 地域の特性を重視したまちづくりを、市民参画・
官民協働で行う

《基本理念形成の視点》



《新市の将来像》

交流と連携を育み、新しい文化を創造する都市^{まち}

《まちづくりの基本目標》

交流と連携を育む
基盤づくり

ゆとりと豊かさのある
生活文化のまちづくり

地域の活力を生み出す
産業のまちづくり

市民と行政のパートナーシップによる協働のまちづくり

まちづくりの基本的な考え方

基本理念形成の視点



○古代から現代へつながる交流の港

「妻木晩田遺跡」「岩屋古墳」「石馬」「上淀廃寺跡」「米子港」など環日本海諸国との交流の歴史と経緯

○新たな交流の時代の到来

高速交通基盤を活用した国内外の交流拠点としての役割

○進取と伝統を重んずる市民のこころ

進取の精神と地域の伝統を重んずる先人の気質を継承

基本理念

新たな文化の発信拠点をめざして

○活力ある個性豊かな定住都市の形成

新市が多様な地域資源や地域特性を生かしながら、豊かな市民生活が実現できる定住都市へと発展してゆくため、新市の総合的な整備と振興を図っていきます。

○新たな交流の時代を見据えた都市の形成

環日本海諸国に近い米子空港を有する新市は、これからの国際交流・協力の拠点としての役割を果たしていきます。

また、近隣の市町村を含む人口20万人規模の圏域の中核として、日本海地域発展の牽引力の役割を果たしていきます。

ゆとりと
豊かさのある
生活文化の
まちづくり

○豊かな自然・歴史環境に包まれた 魅力あふれる定住のまちづくり

大山山麓をはじめとする大らかで豊かな自然に包まれ、かつ弥生時代後期の「妻木晩田遺跡」（国指定）をはじめとする多くの史跡・文化財に出会える豊かな環境に恵まれている条件を生かしたまちづくりを進めます。また徐々に増加している人口の定着を図るために、良質な住宅の供給をはじめ自然環境の保全、コミュニティづくり、防災・防犯、地域情報化、生活密着型交通の整備充実など、すべての市民にとって魅力あふれる生活基盤が整った定住のまちづくりを目指します。

○安心して健やかに暮らせる 健康・福祉のまちづくり

長寿社会において、保健・医療及び福祉サービスの一層の充実を図ることにより、乳幼児から高齢者に至るまでの生涯にわたる健康づくりと福祉を充実し、また少子化時代を背景に子育て支援を充実することにより、いつまでも安心して健やかに暮らせるまちづくりを目指します。

○豊かな心を育む教育と文化のまちづくり

新市の次代を担う若い世代を育て、また生涯にわたる学習の機会を通じて人を育て、よりよい教育・学習環境づくりのため、学校教育の充実をはじめ、生涯学習活動の促進、伝統文化及び文化財の保護と継承に努め、豊かな心を育む教育と文化のまちづくりを目指します。

〈施策分野〉

住宅、上下水道、防災・防犯、交通安全、公園・緑地、環境衛生、自然環境保全、環境学習、リサイクル、保健、医療、福祉、子育て支援、消費生活、コミュニティづくり、人権、男女共同参画、内なる国際化、学校教育、生涯学習、スポーツ、芸術・文化、伝統文化、生活密着型交通

交流と連携を
育む
基盤づくり

新市は、鳥取県西部地域の拠点都市としての役割をこれまで以上に果たしていくため、さらなる都市機能の充実を図ります。また、国際化の進展を背景に、環日本海時代の西の拠点を目指す新市は、それにふさわしい国際交流・協力の機能の充実を目指します。

さらに、県西部の拠点と国際化時代の拠点として活力ある都市を形成していくために、広域交通網・通信網の整備促進を図り、交流と連携を育む都市としての基盤づくりを目指します。

〈施策分野〉

拠点都市機能、国際交流・協力拠点機能、交通基盤、情報基盤

【新市の将来像】

交流と連携を育み、
新しい文化を
創造する都市

地場産品の付加価値の向上、技術集約型産業や知識集約型産業の育成、中心市街地の商業機能の活性化、地域資源を活用した滞在型・通年型・体験型の観光開発など新たな産業振興に取り組み、地域の活力を生み出す産業のまちづくりを目指します。

〈施策分野〉

農林水産業、製造業、商業、観光産業、流通産業

地域の活力を
生み出す
産業の
まちづくり

他の基本目標はすべて、市民と行政が相互の役割を認識し、パートナーシップに基づいて協働するまちづくりを行うことが不可欠です。

また、行財政運営については、職員の能力の向上を図るとともに、合併による行政経費の削減や財政措置の有効な活用などにより、財政基盤の強化を図ります。さらに、新市の公共施設を有効に活用し、効率的なまちづくりを目指します。

〈施策分野〉

市民の参画、行財政運営

市民と行政のパートナーシップに
よる協働のまちづくり

【都市構成図】



ゾーニングの構成

- 都市中心ゾーン** 新市の中心市街地を形成するゾーン
- 田園居住ゾーン** 下水道等の生活環境の整備・充実を図りながら、快適な居住地の形成を進めるゾーン
- 自然環境保全ゾーン** 美しい自然、景観を観光振興等に生かしながら、自然環境の保全を図るゾーン
- 海浜環境保全ゾーン** 優れた景観の保全を図るゾーン

拠点地区

- 西の活力とにぎわいの拠点** 新市における顔のゾーンであり、商業業務をはじめ、各種の都市機能が充足され、新市のまちづくりの中核を担います。
- 東の活力とにぎわいの拠点** 新市における補完的な拠点で、西の活力とにぎわいの拠点とともに市民生活を支える新市のサブ核を形成します。
- 観光拠点** 皆生温泉や妻木晩田遺跡を中心として、既存の観光資源を生かし、市内外の観光交流の拠点を形成します。水鳥公園や壺瓶山周辺は、市民をはじめ多くの人に親しまれ、集客効果の高いレクリエーションの拠点を形成します。
- 工業流通拠点** 既存生産機能の向上や業務環境の改善を図りながら、活力ある新市のまちづくりをリードする工業、流通の中核となります。

ご意見・お問い合わせは

米子市・淀江町合併協議会事務局

〒683-8686 鳥取県米子市中町20番地 米子市役所旧庁舎1階
 TEL.(0859)35-2751 FAX.(0859)35-2753
 [E-mail] gappeikyo@yonago-city.jp
 [URL] <http://www.yonago-yodoe.jp/>